

パースヒートの開幕戦

開幕日：11月1日(金) 球場：Barbagallo Ballpark

11月1日、パースヒートの本拠地、Barbagallo Ballparkで開幕戦が行なわれた。2012-13レギュラーシーズンでは2位のシドニーブルーソックスとプレーオフで2位の座を奪ったパースヒートが激突。



球場には、ABL運営のサポートをしているメジャーリーグの国、アメリカの国旗も掲げられている。



試合開始前にグラウンドに水を撒き、ラインを引く関係者たち。これからの熱戦に備える。



リラックスした雰囲気の中、選手達は試合開始前のウォーミングアップ？！



西オーストラリア州警察の音楽隊の演奏が開幕に花を添え、球場全体が試合開始ムードに包まれる。

いよいよ開幕したABLの2013-14シーズン。パースヒートの開幕戦の様子を写真と共にレポートします。



開幕戦に球場を訪れた観客は2448人。ABLレギュラーシーズンの記録を更新した。



パースヒートは10-0で快勝し、選手達は一列に並びハイタッチ。観客もスタンディングオベーション！



開幕戦の先発に抜擢されたパースヒートのマイク・エリクストロム選手。先頭打者をレフトフライに打ち取る。



対戦相手は昨シーズン、パースヒートに敗れチャンピオンシップへの道を絶たれたシドニーブルーソックス。



球場には売店があり、ビールなどのアルコール類を売るスペースも用意されている。



試合の合間にはグラウンドの脇で、「タイヤ転がし競争」のイベントが行なわれた。



試合後の球場は子ども達に解放され、ベースランニングでまさに選手気分？！



両チーム唯一の本塁打を放ったブランドン・トリップ選手。木製バットでボールを叩く音が球場に響く。



7回の裏、球場の外野エリアを子ども達が一齐に走り抜くというイベントも催された。

パースヒートで働く日本人へインタビュー



齋藤 悠平さん
Yuhei Saito

2010年に約2年間、青年海外協力隊隊員としてモンゴルで野球の普及活動に尽力。2012年からニュージーランドで1年間、そして2013年9月よりABL球団中、戦績及び観客動員数でも優れるパースヒートで広報や営業、マネージメントなどをインターンとして学ぶ。将来は、日本のプロ野球球団で働くことを目標としながら、当地在留邦人へのチームの広報活動も平行して行なう。

① なぜ、パースヒートで仕事を始めたのですか？

① 将来、日本のプロ野球球団でフロントスタッフとして働きたいと考えています。スポーツの世界でも英語は必須なので、英語圏のオーストラリアで、プロ野球球団の実質的なビジネスの側面を見ながら、マネージメントの経験を積みたいと思い、現在パースヒートでお世話になっています。実際、パースヒートはABLの中では観客動員数が一番多く、チームとしても強く、そこには何かしら経営的にも上手いやり方をしているのではないかと、そういうことを学べるのではないかと、求職へのアプローチをして、今に至ります。

② 主なお仕事の内容は？

① 当地の日系のメディアや団体などに声をかけさせていただき、チームの情報を発信する広報の仕事からチケット販売、試合当日の運営にも携わっています。

③ パースに来られる前は？

① 自分の経歴としてはこれまで、青年海外協力隊でモンゴルに野球のコーチとして行きました。プロのコーチではなく、あくまでも野球の普及や小さい子ども達に野球を教え、裾野を広げる活動をしてきました。その後、ニュージーランド、現在のオーストラリアでも、野球をみてきましたが、いろいろな国の野球をみてきたことを自分なりの経験としながら、将来は日本の球団で活かせたらと思っています。

④ オーストラリアの野球やパースヒートの魅力を教えてください。

① 選手達の経歴をみていただくと、アメリカのマイナーリーグでプレーしていた選手や元々メジャーリーグの世界でやっていた選手など、レベルが想像以上に高いということが分かります。またここからメジャーリーガーなどが生まれるきっかけにもなっていますので、そこが魅力ですね。球場の雰囲気も日本とは違った雰囲気があるので、日本の方には新鮮かもしれません。

⑤ パースエクスプレス読者、特に日本人の方へメッセージをお願いします。

① 日本の野球とは異なる、オーストラリアならではの野球を観ていただきたいと思います。そして、ぜひ試合だけではなく、球場の雰囲気も味わっていただけたらと思います。日本のようにメガホンなどの応援グッズや応援団の応援はありませんが、木製バットで球を打った時の乾いた音がはっきり聞こえたりするところなども興味深いと思います。

⑥ 最後に齋藤さんにとっての野球の魅力をお教えてください。

① 野球の魅力は他のスポーツ、例えばサッカーなどと比べると、全ての選手に注目することができるということでしょうか。一般的にサッカーでは、点を取った選手に注目が集まりがちですが、野球はバッターであれば全員にバッティングのチャンスが回ってきて、1本のヒットやホームランで、その瞬間にヒーローになれることもあります。団体スポーツですが、他のスポーツと比べると全選手に平等にチャンスがあるのではないかなと思います。それと、野球は“待ち”の時間が長いので、1球1球に集中して、動きが止まりますが、その1球1球にドラマがあります。試合の展開が他のスポーツとは異なりますが、それぞれの瞬間に注目するといったメリハリも魅力のひとつだと思います。



親しみを感じるアナログのスコアボードには、今日の大勝が記録されていた。